

山口 貴久

パラリンピック種目/
ウィルチェアーラグビー

座右の銘

「不撓不屈」

KANAGAWA

90

■まず、ウィルチェアーラグビーの醍醐味や魅力を教えてください。

タックルが1番の魅力だと思うんですけど、その先のもっと面白い所をみたいと言うのであれば、スピードの遅い選手に注目してその人がどういう風に速いプレイヤーを活かしているかといった戦術的な部分をもっと見ていただくと面白いかなと思います。

■日々のトレーニングで課題にしていることや意識されていることがあれば教えてください。

僕の今の課題は「スピード」というところなので、スピードを磨くところを第1優先に、後はそのスピードをどうやって実戦に活かすかというところで意識しながらやっています。

■ウィルチェアーラグビーとの出会いについて教えてください。

あまり面白い出会いではありませんが、元々ツインバスケットという競技をやっていて、そのチームメイトでウィルチェアーラグビーもやっている選手がいたのでその勧めで始めたのがきっかけです。

始めたのは20代後半ですね。

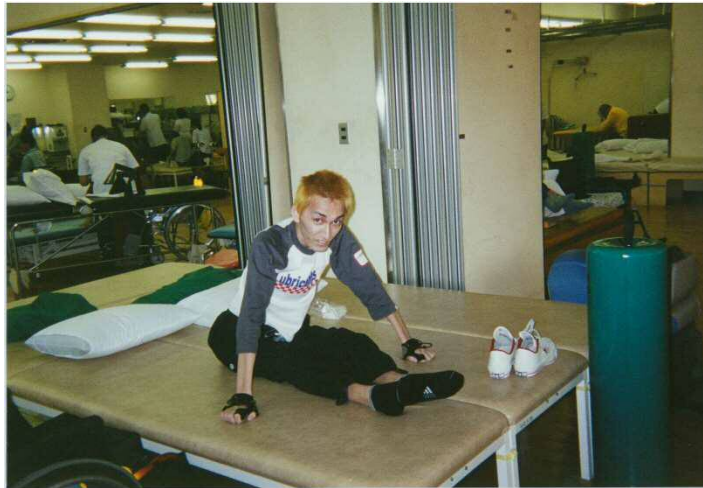
■事故に遭われた時のことをお伺いしてもよいでしょうか。

友達とドライブしている時に助手席に座っていたのですが、ガードレールに接触して、その衝撃で首の骨を折ってしまいました。

■その当時の気持ちとか、苦しかったことなどを教えていただけますか。

事故をしてすぐの時は歩けなくなったということに対してショックというよりは、日々の生活がすごく大変で、ご飯も1年くらい食べられないという時期が続いて、30キロくらいまで落ちてガリガリになってしまっ

て。それが1番辛かったですね。



リハビリ中の山口選手

■リハビリもあり苦しい時期が続いたと思いますが、立ち直るきっかけは何だったのでしょうか。

入院して1年くらいで出会った人で、同じ車いすの人ですけど、その人が車いすって言うのを感じさせないくらいものすごくアクティブな人で（笑）

色々なところに出かけていて、僕も色々遊びに連れていってもらって。そういうのを見て立ち直るきっかけになったと思います。

■退院後には何かご自身の考え方に変化はあったでしょうか。

入院中は周りに同じような仲間がいて、そんなに気になるようなことはなかったんですけど、退院して周りが健常者だらけという環境になった時にやっぱり少し、自分が障がい者っていうことを思い知らされて、多少つらい時期もあったかなと思います。でもそんな中、自分で何か変えようと思った時に会ったのがスポーツだったので、そういう意味でスポーツを始めて色々前向きになっていったという部分はあります。

■ケガをされてからウィルチェアーラグビーの前に何か他のスポーツはされて
いましたか。

1番最初にやったのは陸上ですね。短距離からハーフマラソンまでやりました。
100mでは強化指定選手の候補になりました。

■強化指定選手の候補になられたのにもかかわらず、種目を変えられたのは何
故でしょうか。

クラス分けというのが陸上競技にもあって、1つ上のクラスに上がってしまったため
パラリンピックを目指すにはかなり厳しい状況になったことと、元々
団体競技をやるために個人競技で体力をつけようという理由で始めた陸上だっ
たので自然な流れだったのかなというところですね。

■最初からパラリンピックを目指していたということでしょうか。

全然です（笑）

正直、そこまで全力でやるつもりもなかったですね、スポーツを始めた時は。
ホントに楽しければいいやくらいの感覚でした。

■団体競技を選んだのは何故でしょうか。

団体競技の方が単純に仲間内でワイワイできるので楽しいかなと思ったから
です。

■パラリンピック大会にリオで初出場し、見事銅メダルを獲得した山口選手で
すが、大会にはどのような想いで臨んだのでしょうか。



リオ大会での様子

元々、パラリンピックは憧れの舞台であり
ました。実際、リオでは試合の出場時間がそ
んなになくて。そこは自分でも悔しいところ
ではあったのですが、出来る限り本当
にメダルに近づけるように自分に何が
できるかということを考えながらやっ
ていこうという風に思っていました。

■日本代表のチームの一員になって、チームのメンバーなどに感じるものはありましたか。

チームのメンバーにということももちろん感じたのですが、それ以上に、自分の力の無さを本当に思い知らされたという感じですね。

代表に入る時、多少なりとも自信があった中で代表に選ばれたのですが、合宿などに行ったときにもう自分が全くついていけなくて、そういう所でものすごく自分の力の無さを痛感しました。

■東京大会で金メダルを目指すための課題は何でしょうか。

今の日本代表は、メダルに手が届く実力があると思うので、まずはそこに自分が入らなければいけないということ。その先で勝っていくには海外の選手に負けないスピードをもっとつけていかなければいけないということが課題ですね。

日本はやはり組織力という意味では世界にかなり通じるレベルですけど、特に障がいの重いローポインターが少しスピードで力負けすることがあるのでそういう所を強化しなければと思いますね。

■東京大会に向けてはどのような意気込みを教えてください。

正直、僕が今立たされている立場は、東京大会に出場という点では年齢的にも、ポジション的にも結構厳しい所にいると思います。まずは、自分を出来るだけ高めて、東京大会に出場できるように1歩1歩やっていこうと思っています。



練習中の山口選手

■座右の銘を教えてください。

代表に入ってから一応「不撓不屈」というのを掲げてがんばろうかなと思っています。

■不撓不屈という言葉には、今後、東京大会、その後もずっと続けていきたいという気持ちがあるということでしょうか。

僕の長期的な目標として「生涯現役」というのを目標の1つにしているので、できる限り、体が動く限りやりたいなと思っています。



■神奈川県民に向けたメッセージをお願いします。

みんな知らない競技であると思うので、東京大会に向けてまずは地元開催というところで盛り上げてもらって、そこで知ったウィルチェアーラグビーをずっと覚えてくれたらうれしいなと思います。

山口 貴久 (やまぐち たかひさ)

横須賀市出身。1981年生まれ。19歳の時に交通事故に遭い四肢麻痺となる。26歳で団体競技の車椅子ツインバスケットボールを始める。チームメイトの紹介でウィルチェアーラグビーに出会う。2016年のリオパラリンピックでは日本初となる3位に入賞し、銅メダルを獲得。「不撓不屈」の精神で、東京パラリンピック大会への出場を目指す。

(主な成績)

競技種目：ウィルチェアーラグビー Class 1.0

2016年9月 リオパラリンピック出場 銅メダル

